

第 37 回土木計画学研究発表会(春大会)：2008.6.6~7(北海道大学)
 企画論文部門，若手研究者論文部門 セッション討議内容の記録

セッション名：起業的マネジメント論（第一会場）	
日付： 6月 7日（土）曜日，セッション時間：14:45 ~ 16:15	
オーガナイザー・司会者名(所属)：松島格也，宇野伸宏	
討 議 内 容	セッション全体：質疑は発表者全員の発表後にまとめて実施． 以下に記載．
	(発表番号) 発表者名 (所属)：(178)安隆浩（京都大学） Q1．傾向情報を見ない被験者は所要時間も見ないのか？ Q2．ハンチング現象緩和の過程でドライバーの利用経路は大幅に変わるのか？ Q3．傾向情報は意味があるのか？ 傾向情報よりシンプルな情報にすべきでは？ A3．現状と異なる交通状態を起こす，ドライバーの多様性を見るためには有効．
	(発表番号) 発表者名 (所属)：(179)安野貴人（ニュージェック） 該当する質問なし．
	(発表番号) 発表者名 (所属)：(180)酒井弘（まち創生研究所） Q1．社会実験を中止しないようにするためにはどうすればよいか？ 中止はないのか？ A1．中止するかどうかの見極めは大事． 優位均衡が見えた時点で実験を開始している．他の理由で中止することはある． 事後評価は重要． Q2．導入によりバスに乗り，自家用車を止めるという別の均衡ができるのか？ A2．どうしようもなく自家用車に乗る人もおりその限りではない．
	(発表番号) 発表者名 (所属)：(181)松島格也（京都大学） Q1．複数均衡解を解くためのデータはあるのか？ 適用の可能性は？ 均衡解は見たら感覚的にわかるのではないか？モデルでわかるのか？推定は本当にできるのか？ A1．いくつかの仮定の下では理論的に推定することができる．

(発表番号) 発表者名 (所属) : (182)小林潔 (京都大学)

Q1 . 推定は事後評価のために有効である . 事後評価こそがマネジメントである .

A1 . 推定の意義を問い直す必要がある . 推定すべきものは重要パラメータとその数値である . また , 仮説の設定と懸賞は重要である . それに対しどのような推定をするかが肝要 . 推定自体を否定する向きがあるが , 推定すること自体は問題ではない . ただし , 内生性が絡むと推定が難しくなるのでこの点の解決が必要である . 実務的には , 地域間 , 人の価値観でパラメータが異なるためこのような個別事象を扱うことが大切である .